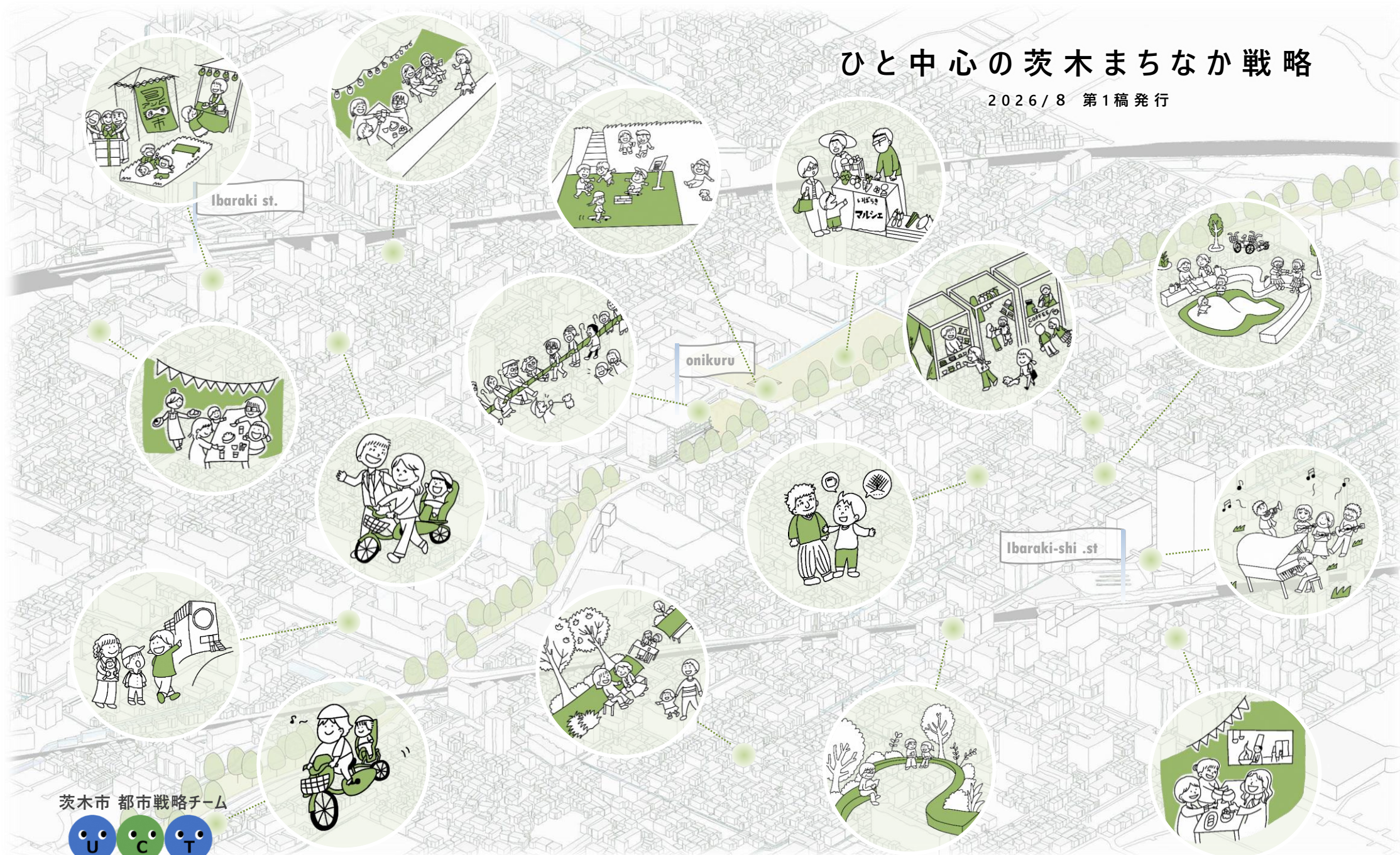


ひと中心の茨木まちなか戦略

2026/8 第1稿発行



茨木市 都市戦略チーム



2026

Urban Strategy Cross Functional Team

index

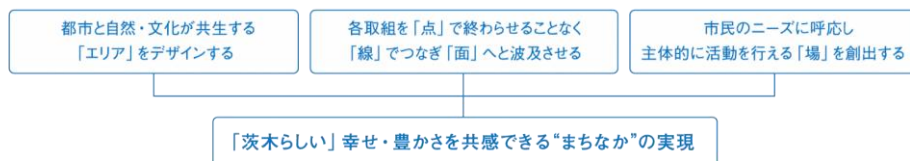
背 景	次なる茨木グランドデザインと2コア1パーク & モール	2
	ひと・プロセス重視のまちづくりと「おにクル」	3
目 的	茨木らしい幸せと豊かさを共感できるまちなかの実現	4
価 値 観	ひと中心の茨木まちなかスタイル	5
コ ン セ プ ト	手をつないで歩きたい茨木まちなか	6
戦 略	ひとまち戦略とひとまちアクション	7
	徒歩圏域単位での展開	8
ア ク シ ョ ン	ひとまちアクションの具体事業	9
	ひとまちアクション2030ロードマップ	10
	モデル事業検討エリア	11
	各モデル事業	12
	ひとまち戦略の推進体制	14
	将来イメージ	15

- 本市の中心市街地は、1970年（昭和45年）の大阪万博を契機に駅前等の主要な都市施設が整備され、現在一斉に更新時期を迎えており、施設の老朽化や賑わいと都市機能の低下といった課題に対応すべく、一体的な更新が必要になっています。
- そうしたなか、市では中心市街地（まちなか）のにぎわいの創出に向け、2018年（平成30年）から「次なる茨木グランドデザイン」と「2コア1パーク&モール」の考え方のもと、一体的なまちづくりを進めています。

次なる茨木グランドデザイン

- ・ 従来型の行政計画として完成したものではなく、多様な人々と共にまちの将来像を描いていくまちづくりの考え方、進め方
- ・ ワークショップや社会実験等によるプロセスを積み重ね、導かれた成果や課題を反映し、絶えずアップデートを繰り返す

ミッション



みんなと一緒に作りあげていく

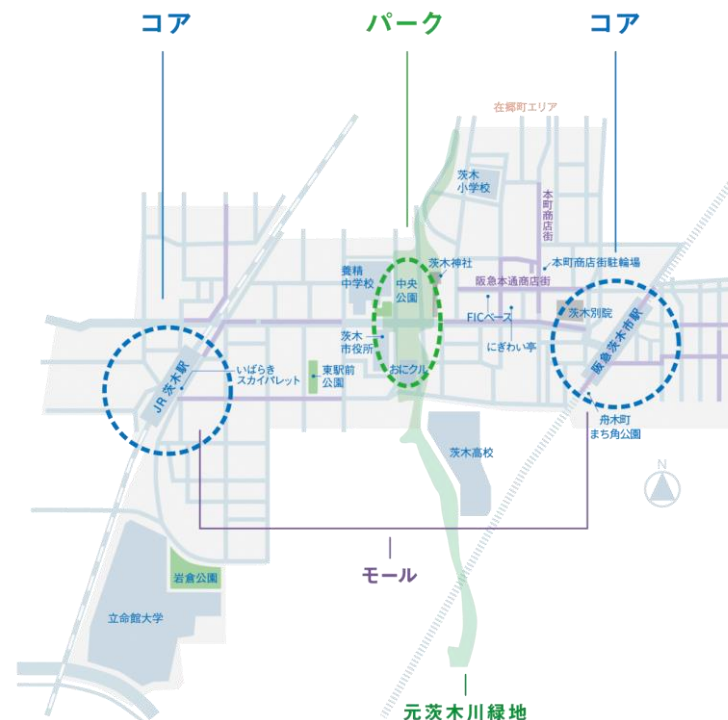
次なる茨木グランドデザインでは、多様な人々とともに「まちの将来像」を描きだし、さまざまな活動や体験を推進力にした「まちづくり」を実践していきます。

活動や体験から導き出された成果や課題をフィードバックさせる

完成を目指すというよりも、変化する社会の動向や価値観に対応し、絶えずアップデートを繰り返しながらグランドデザインへとつなげていきます。

2コア1パーク&モールの都市構造

- ・ 以下の都市構造を活かし中心市街地（まちなか）を俯瞰的に捉えた上で、各事業の効果を点から面へ連携・連動して広げていく



2 コア：JR茨木駅、阪急茨木市駅周辺

1 パーク：おにクル、中央公園、元茨木川緑地周辺

モ - ル：中央通り・東西通りの東西軸、複数の商店街

背景

背景

目的

価値観

コンセプト

戦略

アクション

- パークエリアでは、市民会館跡地エリア活用の取組において、「育てる広場」の考え方のもと、社会実験「IBALAB（イバラボ）」として、多様な人々とともに、考えながら様々な活動の実践を繰り返すことで、その場で起こる出来事や価値観の共有、共感が生まれ、新たな担い手の発掘や多種多彩な活動につながり、「茨木らしいまちの景色」となっています。
- また、2023年（令和5年）に文化子育て複合施設「おにクル」が開館し、これまでの取組の積み重ねにより、場や空間を使いこなし、楽しみ、思い思いに過ごす様子が見られ、年間約200万人が来館する公共施設として新たなにぎわいが生まれています。
- そうしたなか、モールである東西軸の道路空間再編に向けた社会実験「みちクル」など、「ひと・プロセス重視」の考え方で進めることにより「ひと中心」の価値観がまちなかへと広がりつつあります。

ひと・プロセス重視のまちづくり



「IBALAB」（芝張りワークショップ）



IBALAB@広場（ルールづくりと多様な活動）



おにクル外観



おにクルの様子



スカイパレットでのイベント
「えきまえマルシェ」



中央通りでの社会実験「みちクル」



おにクルや元茨木川緑地でのイベントの様子



目的

背景	目的	価値観	コンセプト	戦略	アクション
----	----	-----	-------	----	-------

- 次なる茨木グランドデザインの考え方のもと、多様な人々とともに積み重ねてきた「ひと・プロセス重視」の取組の成果を可視化・具現化し、「ひと中心のまちなか」の価値観を共有しながら、まちなかづくりを次のステップへと進めていきたいと考えています。
- 次のステップとして、「おにクル」のにぎわいをまちなかに広げるため、2コア1パーク&モールの都市構造のもと官民の多様な人々との連携により、大きな方向性を共有し、事業の質やまちなかの回遊性向上につなげていく必要があります。
- これらの経緯を踏まえ、多様な人々との共創のまちづくりを進めるため、「茨木らしい幸せと豊かさを共感できるまちなかの実現」を目的としています。

-次のステップ-

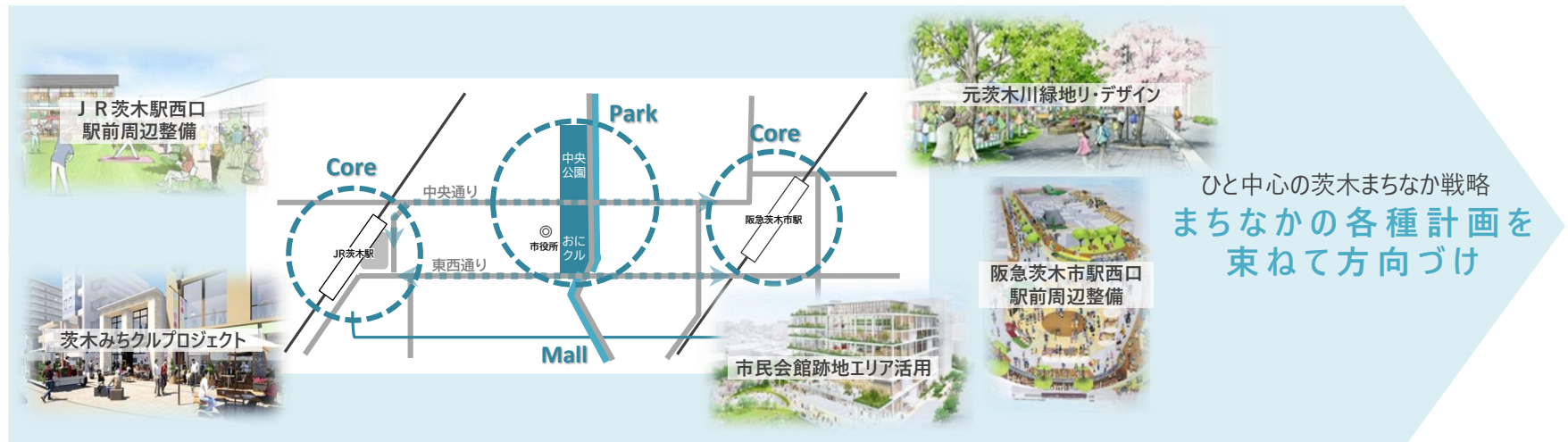


▼各種計画

都市計画マスタープラン

立地適正化計画

総合交通戦略



価値観

背景	目的	価値観	コンセプト	戦略	アクション
----	----	-----	-------	----	-------

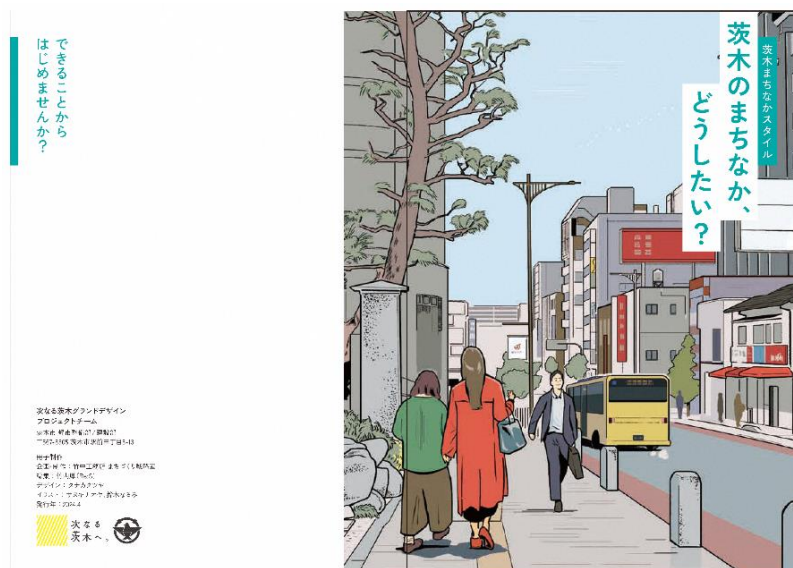
- これまでの多様な人々とのプロセス（ワークショップや社会実験等）を通して得られた「価値観」を「ひと中心の茨木まちなかスタイル」としてまとめ、これからのまちなかにおける各事業や取組においても拠り所にしていきます。
- また、その共有のためのツールとして、「コンセプトブック」を作成し、展開しています。

価値観：ひと中心の茨木まちなかスタイル

< 茨木のまちなかを楽しみ、使いこなすための10のスタイル >



< コンセプトブック >



コンセプト

背景	目的	価値観	コンセプト	戦略	アクション
----	----	-----	-------	----	-------

- コンセプトを「手をつないで歩きたい、茨木まちなか」とし、ゆとりのあるまちなかという意味に加え、価値観（まちなかスタイル）への共感とアクションを通じた好影響をつないでいくという思いを込めています。

コンセプト：手をつないで歩きたい、茨木まちなか

そぞろ歩きが楽しめるまちなか



目的がなくてもそぞろ歩きが楽しめ、偶然の出会いや発見が魅力となり、訪問回数が増えた各エリア毎の滞在時間も増えるなど好循環につながります。

お気に入りの場所があるまちなか



他にはないお気に入りの場所や個性的な行きつけの店があることで、まちなか愛が芽生えるとともに、リピーターやサポーターを育てます。

だれかと共感しあえるまちなか



お気に入りの店で新しい店を紹介されたり、イベントで知り合った人の企画する場を訪ねてみたりするなど、共感が共感を呼び込み自然と広がります。

ひとまち戦略とひとまちアクション

背景	目的	価値観	コンセプト	戦略	アクション
----	----	-----	-------	----	-------

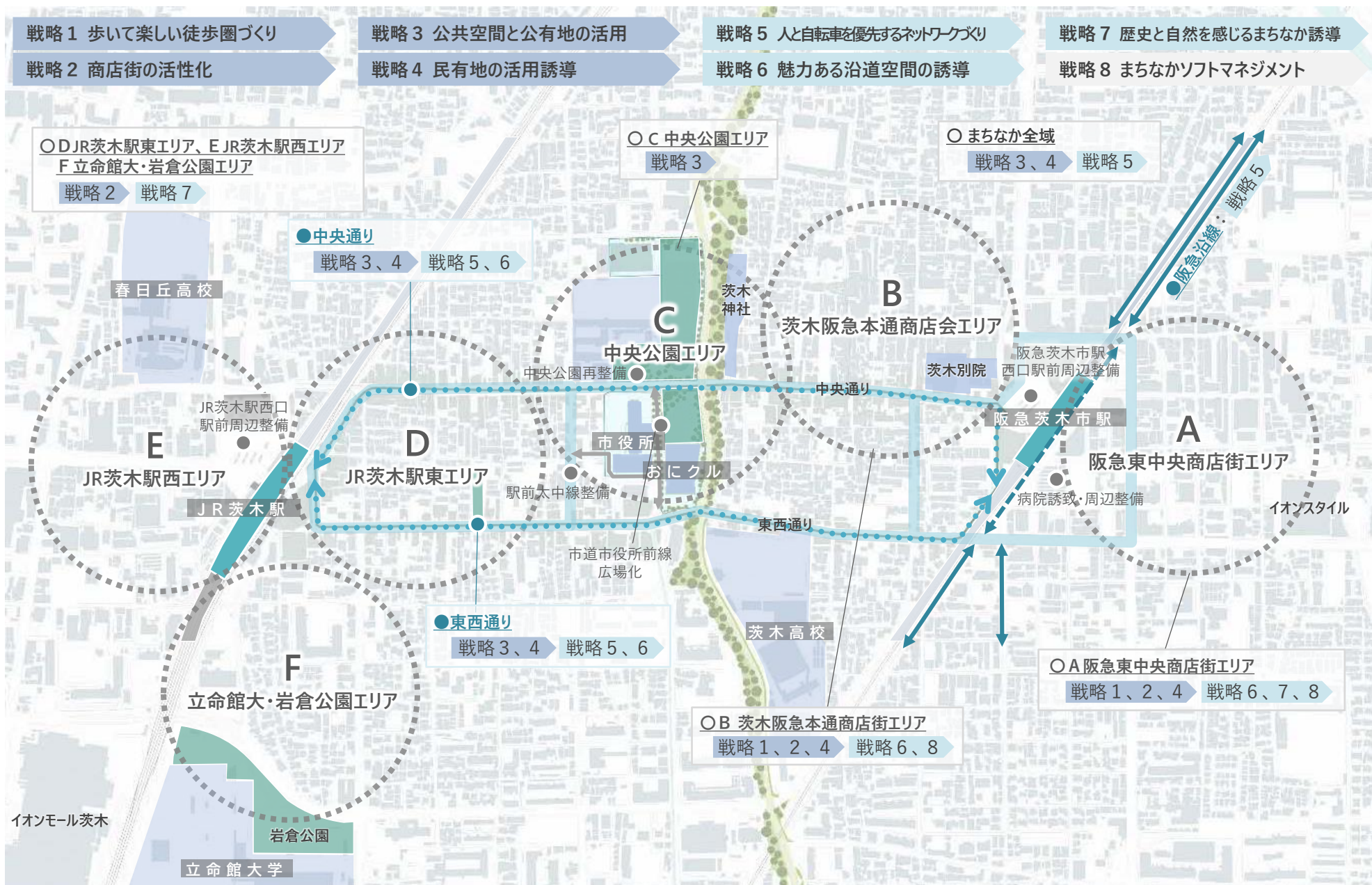
- これまでの検討から、目的の達成に向けて、ひと中心の茨木まちなか戦略（ひとまち戦略）として8つの戦略を定めました。
- ひとまち戦略からアクション候補を検討し5年以内に着手可能かつ優先度の高いものをひとまちアクションとして整理しました。

10のひと中心の茨木まちなかスタイル	コンセプト：手をつないで歩きたい、茨木まちなか	ひとまち戦略	ひとまちアクション
 スタイル01 ぶらぶら歩くと新しい発見がある	 <u>そぞろ歩きが楽しめるまちなか</u>	戦略1 歩いて楽しい徒歩圏づくり	まちなか駐輪場の魅力化 
 スタイル02 自転車でものんびり過ごせる		戦略5 人と自転車を優先するネットワークづくり	まちなか広場の魅力化 
 スタイル03 日常的に四季の変化を感じられる		戦略3 公共空間と公有地の活用	まちの緑化 
 スタイル04 このまちなかにしかないものがある	 <u>お気に入りの場所があるまちなか</u>	戦略7 歴史と自然を感じるまちなか誘導	まちなか歩行者優先化 
 スタイル05 夜のいいにぎわいを感じる		戦略2 商店街の活性化	自転車ネットワークづくり 
 スタイル06 思い思いに過ごせる場所がある		戦略3 公共空間と公有地の活用	パブリックスペースの利活用・運営管理 まちづくり団体の活性化 ブランディングの展開 地域魅力や具体プロジェクトを通じたPR
 スタイル07 みんなで考え育てる場所がある	 <u>だれかと共感しあえるまちなか</u>	戦略4 民有地の活用誘導	次なる茨木へ。 
 スタイル08 気軽にチャレンジができる		戦略8 まちなかソフトマネジメント	
 スタイル09 愛をもってまちなかを応援する			
 スタイル10 いろんな人に紹介したくなる			

徒歩圏域単位での展開

背景	目的	価値観	コンセプト	戦略	アクション
----	----	-----	-------	----	-------

- また、その方針の展開にあたっては、徒歩5分圏（400m）の単位で検討を進めることにより、面的ににぎわい人々が回遊するまちなかにしていきたいと考えてます。



背景 目的 価値観 コンセプト 戦略 **アクション**

-
- 各種計画に位置付けられた具体事業
- ひとまちアクション
- 春日丘高校
- JR茨木駅西口駅前周辺整備
- エスカレーター設置
- JR茨木駅
- スカイパレットの魅力化
- ミスト設置
- 側道の空間再編みちクル
- ストリートデザインガイドラインの実現
- 無電柱化
- 駅前太中線対面通行化
- 中央公園再整備
- 市道市役所前線の広場化
- 市役所
- おにクル
- 商店街駐輪場の魅力化
- 高瀬川上部の魅力化
- 西口駐輪場再整備
- 高瀬川周辺空間魅力化
- 舟木町まち角公園の魅力化
- 本通商店街東口魅力化
- ソシオ茨木建替
- 阪急茨木市駅西口駅前周辺整備
- 東口駅前広場有効活用
- 歩道整備
- 病院誘致
- 道路対面通行化
- 自転車空間整備
- 茨木高校
- イオンスタイル
- イオンモール茨木
- 立命館大学
- 2 コア: JR茨木駅、阪急茨木市駅周辺
- 1 パーク: おにクル、中央公園、元茨木川緑地周辺
- モ - ル: 中央通り・東西通りの東西軸、複数の商店街

ひとまちアクション2030のロードマップ

背景 目的 価値観 コンセプト 戦略 アクション

- ひとまちアクションのうち、概ね5年以内に実現可能なものをひとまちアクション2030として、小さな実践と検証、アップデートを繰り返し、ハードとソフトの両面から推進していきます。



2025年3月作成

※現時点の予定であり、随時見直ししながら進めていきます。

ひとまちアクションモデル事業検討エリア

背景	目的	価値観	コンセプト	戦略	アクション
----	----	-----	-------	----	-------

- 2026年度（令和8年度）は、阪急茨木市駅西口の進捗状況を踏まえ、「阪急茨木市駅周辺エリア」と「阪急本通商店街周辺エリア」を中心にモデル事業を検討し、ひとまちアクションの実践を進めます。

まちなか駐輪場の魅力化



まちなか広場の魅力化



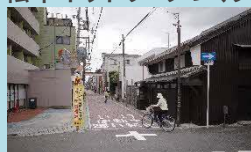
まちの緑化



まちなか歩行者優先化

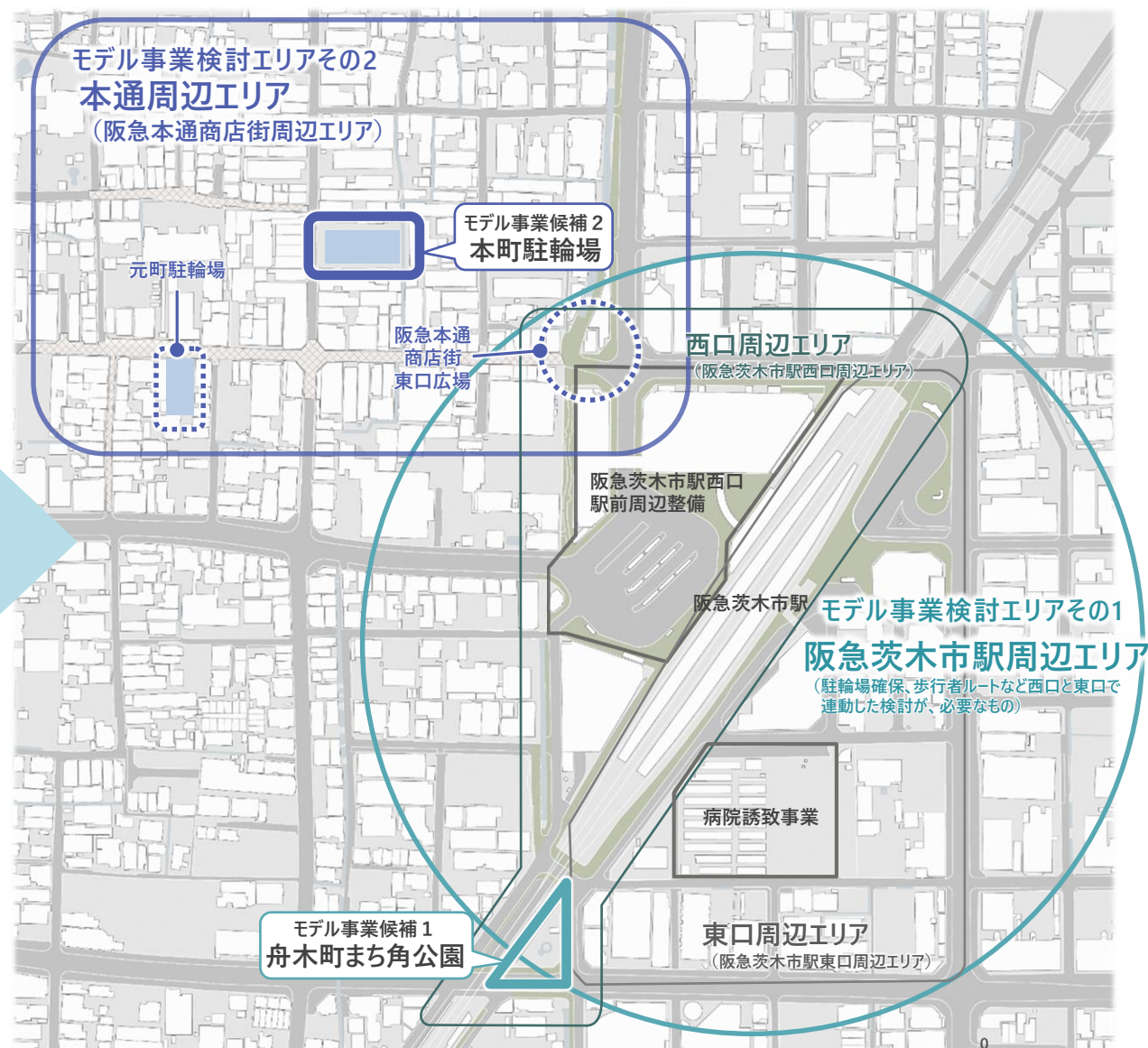


自転車ネットワークづくり



ハード系ひとまち
アクション候補

ソフト系アクション
とも連動



【舟木町まち角公園再整備プロジェクト】

ひとまちアクション2030 モデル事業①

状況：課題出し 方向性検討 基本計画 予算化 実施計画 実施

★現況・課題



- ・植栽やファニチャー類が設置されているが、座りたくなる雰囲気は失われている。
- ・求心力のあるものがなく禁止看板など心理的な近づきにくさも感じられる。
- ・バス待ちの待機スペースが足りず道にはみ出ている。
- ・高架下駐車場利用のため公共スペースの多くを車路に割いている。

★取組の意義

- ・東口周辺エリアの入口であり、西口周辺エリアに隣接する立地として、公園の魅力がまちづくりにもたらす派生的な効果が大きい。(レバレッジポイント)

★検討状況

庁内WS

- ・阪急茨木市駅前広場や本通り商店街の公有地を含む複数の広場を題材にしたWS
- ・各広場に対し課題を整理
- ・ペルソナを設定し、利用のされ方を想定
- ・各広場の性格や期待されうることを客観的に捉えた

流動調査

- ・舟木町まち角公園周辺の歩行者、自転車の人流調査及び、自動車通行量を計測。

事業スキーム検討

- ・民間連携スキームを比較し、本PJに「都市リノベーション制度」の導入を検討開始。

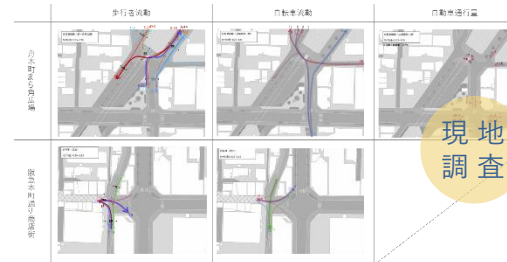
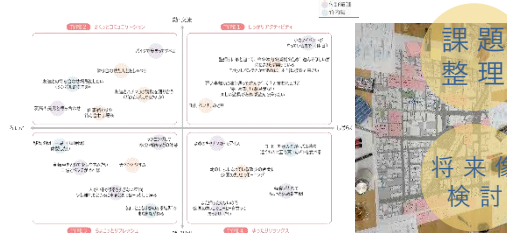
利用者アンケート

- ・利用のされ方、現状に対する評価をヒアリング。
- ・庁内WSの結果をもって、将来イメージを複数パターン提示し選定してもらうことで、利用者ニーズをとらえた。

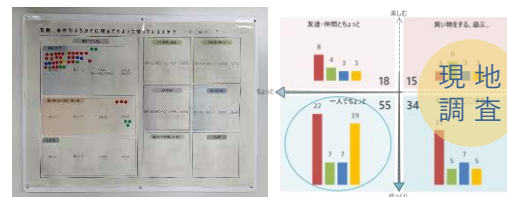
周辺事業者アンケート

- ・利用者アンケート同様に周辺19事業者に対し実施。

舟木町まち角公園での「こうなりたいいな」タイプ別整理



事業名	事業内容	事業の意義	事業の課題	事業の成果
まちなか憩いの交差点	まちなか憩いの交差点の整備	まちなか憩いの交差点の整備により、まちの活性化を図る。	まちなか憩いの交差点の整備に必要となる資金の確保。	まちなか憩いの交差点の整備が完了し、まちの活性化が図られた。
まちなか憩いの交差点	まちなか憩いの交差点の整備	まちなか憩いの交差点の整備により、まちの活性化を図る。	まちなか憩いの交差点の整備に必要となる資金の確保。	まちなか憩いの交差点の整備が完了し、まちの活性化が図られた。
まちなか憩いの交差点	まちなか憩いの交差点の整備	まちなか憩いの交差点の整備により、まちの活性化を図る。	まちなか憩いの交差点の整備に必要となる資金の確保。	まちなか憩いの交差点の整備が完了し、まちの活性化が図られた。
まちなか憩いの交差点	まちなか憩いの交差点の整備	まちなか憩いの交差点の整備により、まちの活性化を図る。	まちなか憩いの交差点の整備に必要となる資金の確保。	まちなか憩いの交差点の整備が完了し、まちの活性化が図られた。



★スタイル・アクション



- まちなか広場の導入
- まちの緑化
- まちづくり団体の活性化
- パブリックスペースの利活用

★目標・実現したいこと・波及効果

- ・周辺店舗が増える。
- ・周辺事業者のテイクアウトメニューが増える。
- ・周辺のウォーカビリティが向上する。
- ・阪急駅周辺エリア・高瀬川沿いまちづくりの入口として期待感を醸成する。
- ・利用者のライフスタイルに+αの豊かさを与える。

★整備イメージ

まちなか憩いの交差点 Machinaka Cozy Cross

子供や学生、高齢者まで、だれもが思い
思いに過ごせる舟木町まち角公園



- ✓居心地を作る多彩な植栽や木陰
- ✓多様な使われ方を促すベンチや什器
- ✓夜も居心地よく演出する照明デザイン
- ✓子供も夢中になれるコンテンツや仕組み
- ✓キッチンカー出店やイベントも可能な舗装
- ✓出会いやインタラクティブ性のある体験
- ✓阪急高架下を有効に活用し、利活用幅を拡大(要調整)

【本町駐輪場魅力向上プロジェクト】

ひとまちアクション2030 モデル事業②

状況：課題出し

方向性検討

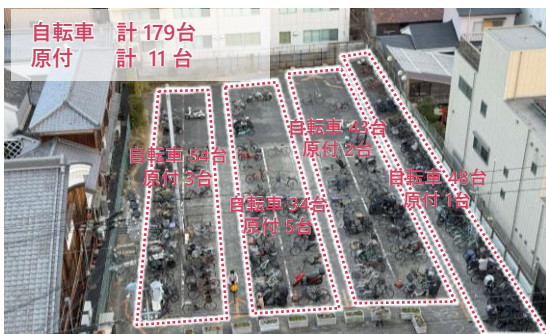
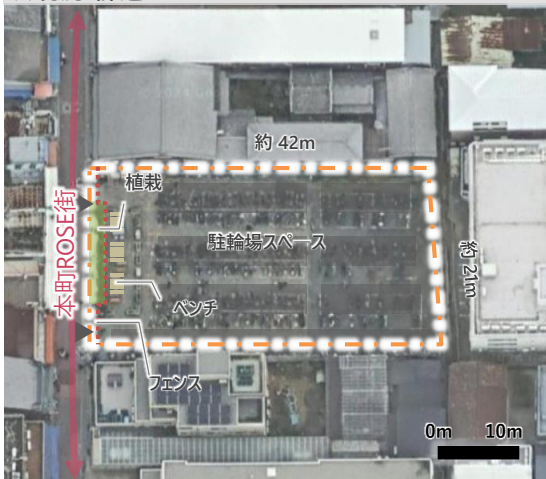
基本計画

予算化

実施計画

実施

★現況・課題



【駐輪場の課題】

- ・傾斜に設置されたベンチの利用率が低い
- ・無料駐輪場のためか放置自転車等がある
- ・夜間の施錠時間が早い

【商店街の課題】

- ・商店街の緑・滞留空間が少ない
- ・商店街に賑わいを生むオープンスペースがない

取組の意義

★検討状況

庁内WS

阪急茨木市駅前広場や本通り商店街の公有地を含む複数の広場を題材にしたWSを実施した。

本町駐輪場について課題と期待する将来像について意見を出し合った。

【将来像】

- ・商店街で購入した物を食べる
- ・カフェやキッチンカーの出店
- ・盗難やタイヤパンクの心配がない駐輪場
- ・1人で時間をつぶす

行先調査

本町駐輪場と元町駐輪場の利用者に対し「どこから来て、どこへ向かうか」ヒアリングをおこなった。

傾向として、各駐輪場の利用者は行先ではなくどこから来たかによって駐輪場を選択していると推測できる。

また本町よりも元町駐輪場利用者の方が目的数が多い傾向が見受けられた。

人流調査

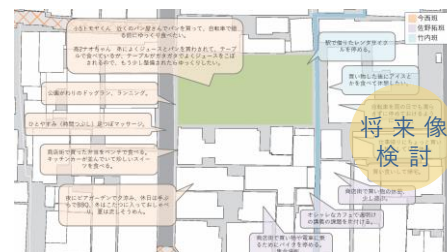
ローズ街の自転車・歩行者に対し人流調査を行った。

ローズ街よりも本通り商店街の方が歩行者通行量が多い。一方自転車通行量はローズ街の方が多いことが明らかになった。

駐輪場実態調査

本町駐輪場と元町駐輪場について、商店街通行量がピークとなる平日夕方の状態で駐輪場停車台数をカウントした。

調査時の駐輪台数は、78台の元町駐輪場に対し本町駐輪場は2倍強の190台となった。いずれも活用ができる余剰スペースが見込まれる。



★スタイル・アクション



まちなか広場の導入

まちの緑化

まちづくり団体の活性化

パブリックスペースの利活用

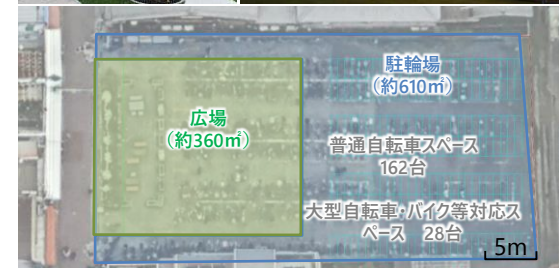
★目標・実現したいこと・波及効果

- ・ローズ街の賑わいに寄与
- ・駐輪場の魅力化による新たな自転車ライフスタイル提示
- ・チャレンジショップなどの取り組みにより、商店街事業者との差別化を図る

★整備イメージ

まちなかりビングパーク Machinaka Living Park

自転車を停めた後や通りがかった時に、立ち寄りたくなる駐輪場



- ✓ 駐輪スペースと広場のゾーニングを分けまとまったスペースを活用
- ✓ 店舗やイベントによる賑わいづくり
- ✓ テイクアウト商品を食べられる什器の設置

ひとまち戦略の推進体制

■ 多様な人々とのチームづくり

チームづくりの目的

ひと中心のまちなかを目指して、多様な人々との関わりのもと、共創のまちづくりを実践する

① 各種事業のコーディネート

- ・2コア1パーク&モールを俯瞰して調整
- ・各拠点ごとの検討チーム（WT）による推進
- ・外部視点を入れて施設管理者と一緒に検討

② ゆるやかなプラットフォームづくり

- ・FICベースを中心とした関係性構築
- ・民間プレイヤーのやりたいことを後押し
- ・事業を通したまちなかの情報発信

③ ひとまちアクションの推進

- ・2コア1パーク&モールの主要事業以外でエリアの価値向上につながるアクションから周辺の変化を生み出す

活動の体制

まちづくり専門家

ひとまち戦略
推進会議

都市戦略チーム（CFT）

CFT会議

2コアWT会議

1パークWT会議

モールWT会議

官民
ビジョン会議

地元組織・プレイヤー

まちづくり会社
FICベース等

都市戦略チーム（CFT）

※CFT：Cross Functional Teamの略称

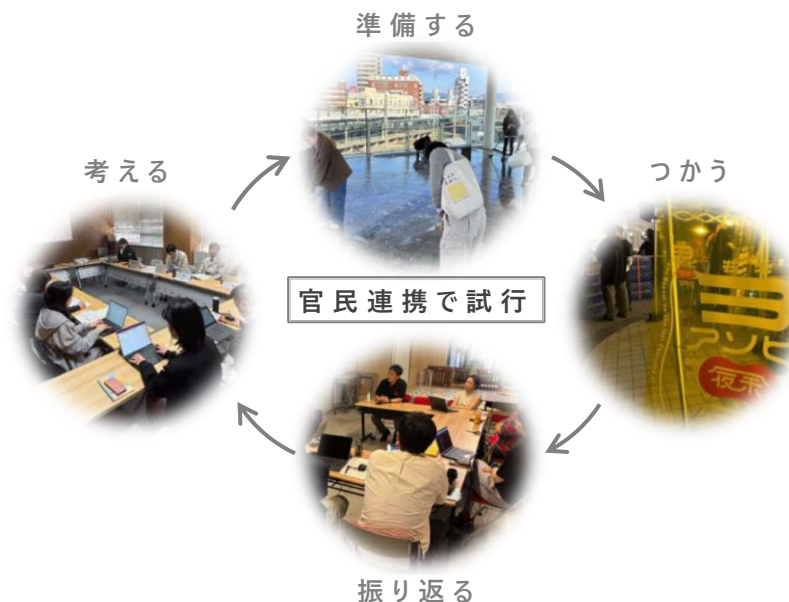
- ・都市・建設・産業など複数の部署・分野を横断して構成されるチーム。
- ・各拠点ごとにWT（ワーキングチーム）を設け、少人数で機動力のある検討を推進。
- ・他分野に横断する施策を連携・連動して進め、「ひと中心のまちなか」に向けた共創のまちづくりを推進する。

地元組織・プレイヤー

- ・公共空間の利活用やマネジメントを視野に入れ、検討・活動する人々や組織。
- ・利活用の企画を提案し、実際のトライアル等を通じて、マネジメントに向けた課題やブラッシュアップを図る。

まちづくり専門家

- ・より広い視点から茨木まちなかの施策を展望し、施策の方向性や手法について、助言を行う。
- ・ひとまちアクションの推進などのコーディネートを行う。



ひとまち戦略の将来イメージ

背景 目的 価値観 コンセプト 戦略 アクション

＜スカイパレット＞
ただ帰るだけでは勿体ない
楽しいこと、おいしいもの
に出会えるかもしれない

＜メインストリート＞
通るだけの道では勿体ない
帰り道に寄りたくなってしまう

＜中央公園＞
みんなのやりたいが共存する考え育む広場

＜まちなかの広場＞
茨木産の野菜が
まちなかでも手に入る

ひとまち戦略の推進により、
ひと中心の価値観（まちなかスタイル）
が実感できるハード・ソフトの事業が
まちのあちらこちらで展開されます

＜市役所前線の広場化＞
元道路ならではの長さを活かし
綱引き大会を実施！

＜商店街＞
チャレンジショップには
新しい出会いが沢山ある

＜本町駐輪場＞
買い物終わりに小休憩

＜お気に入りのお店＞
家族で恒例のお祝い会

＜まちなか＞
自転車に乗るときこそ
心にも時間にもゆとりをもとう

＜まちなか＞
茨生人図鑑で知合ったひとと
ばったり出会う

＜駅前の広場＞
屋外広場で演奏会がやっている

＜まちなか＞
移住を検討している
友人にまちなか案内

＜舟木町まち角公園＞
買い物やバス待ちの合間に
いろんな人が思い思いに過ごす広場

＜高瀬川沿い＞
まちなかでも自然を感じて
ゆったりくつろぐ

＜おすすめのお店＞
友人と楽しくディナー